


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 嘉楽中学校 】

1 実践テーマ	Ⅲ
2 実施対象者 (学年・人数)	京都市立嘉楽中学校 第2学年 (男子 36 名 女子 43 名)
3 展開の形式	学校における活動 ① 教科名 () ② <u>行事名</u> (人権学習) ③ その他 ()
4 目標 (ねらい)	障害のある人と共に生きていくために、私たちに何ができるか考える。また、講師を招き、パラスポーツを体験する(ボッチャ)ことで、障害の有無をこえてやりがいを持って生きることの大切さを学ぶ。
5 取組内容	<p>1 事前学習 道徳の授業で「社会参画」について考えた。 2 「障害とは何か？」(京都市障害者スポーツ協会に講師依頼) ケガや病気との違いから障害のあるなしにかかわらずスポーツを楽しむためにはどう工夫ができるか パラスポーツ体験(ボッチャ)</p>  <p>3 事後学習として体験を通して学んだことを意見交流した。</p>

<p>6 主な成果</p>	<p>事前学習の道徳の授業では、現代社会の多様性のなかで共生をし、社会に参画するために大切なことは何かを考えた。</p> <p>当日の事業内容は人権学習として講義1時間、体験1時間とした。講義では障害は何かについて、さまざまなパラスポーツの映像を見たり、具体的な障害の種類の説明を受けたりしたことで理解が深まった。ボッチャは初めての経験となったが、ルールが分かりやすく、「少しの工夫でたくさんの人が参加して楽しむことができる」という講義で聞いたことを実感することができた。ボールを置きたいところに投げられるようになってからは、チーム内で活発に意見交流をして作戦を立てている様子が見られた。</p> <p>事後学習のようすから、共生社会の実現に向けて自分達ができることを考える時間になったと感じた。</p> <p>(生徒の感想より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツ、男女・年齢・障害の有無関係なしに、だれとでも一緒に楽しみ、笑い合うことの出来るもので、すごくいいなと思いました。そこで、また新たな出会いがあって、それがつながれていくとも思います。 ・パラスポーツは、障がいを持っている人がするものだと思っていただけ、今日の学習をとおして、それは違うことを知った。今日やったボッチャは楽しかったから、このようなスポーツが増えたら、たくさんの人と遊んだり、競い合ったりすることが対等にできるなと思った。 ・誰にでもできるように工夫されているのがすごいと思いました。はじめはボールが思ったように転がらなくてうまくいかなかったけれど慣れてくるとボールが大体思ったところについて、戦略を考えることもできました。今までルールも知らなかったけれどおもしろいスポーツだとわかり、もう一度やってみたいと思いました。 ・実際やってみて、楽しくグループで話し合い協力して取り組んで、個人もいけれどグループになってやることで仲が深まったり考え方の違いに気づきました。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・12月は人権月間であり、学校全体で人権学習をしていくという期間中に、本事業を設定して、生徒達に多様性のなかで共生するためにはというねらいを意識させた。 ・事後学習では、意見交流をした学級があれば、掲示物にして生徒達の気づきや学んだことを全体に共有した学級もあった。
<p>8主な課題等</p>	<p>パラスポーツ体験は80人の人数で体験時間が約1時間だった。ボッチャの正規のコートを縮小して体験をすることになった。事前学習を教師が行い、体験に時間を多くとることができたなら正規のコートで試合ができたかもしれない。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>継続する予定。</p>